

Lesson 161



仮定法過去：未来や現在の空想

現在の事実反することや将来起こる可能性が低いこと、机上の空論を、「仮に～だとしたら、(その結果)…になる」と述べる場合は、次の形で表します。

条件節	結論節
If 主語＋過去形 (仮に～だとしたら； たとえ～だとしても)	would Vb (Vすることになるのだが)
	might Vb (Vするかもしれないが)
	could Vb (Vすることができるのだが； Vすることもあり得るだろうに)

(注) 結論節の否定形(詳しくは Chapter 14 の各助動詞の項目)は省略しています。

(注) (英) のフォーマルな表現では結論節の would を should にすることがあります。

この形は「過去形」の動詞や助動詞を用いるので「仮定法過去」と呼びますが、過去ではなく、**現在や未来（時の感覚がないこと）**を表す点に注意してください。仮定法では**現在形の助動詞 (will, can, must, may) を使いません**。仮定法の時制を過去へとずらすのは、話が現実からずれて[離れて]いることを示すためです。結論節の助動詞 (would, might, could) の意味は Chapter 14 で学習した内容と同じです。まずは、条件節が**現在の事実**に反する例文を見てみましょう。

① If you were my age, you might think otherwise.

⇒ 仮に君が私の年齢なら・君は考えるかもしれない・それとは違うように。

→ 君が私の年齢だったら、また違った考えになるのかもしれないよ。

仮定法過去の条件節では、**be 動詞を主語に関係なく were にする**のが正式な文法ですが、日常会話では、主語が一人称と三人称の単数の場合に（通常の過去形と同様に）**was** を用いることがあります。次の例文で確認しましょう。

② If he were here, I could count on him for anything.

If he was here, I could count on him for anything.

⇒ 仮に彼がいたら・ここに・私は頼れるのだが・彼に・いかなることでも。

→ 彼がここにいたら、何でも頼ることができるんだけど。

* 1 番目の文は正式な言い方、2 番目は会話でよく用いられる言い方です。

次は、条件節が「将来起こる可能性が低そうなこと」もしくは「時の意識がないこと」の例文を見てみましょう。

③ If you won millions in the lottery, would you still work?

⇒ 仮にあなたが獲得したら・数百万を・宝くじで・あなたはそれでも働きますか？

→ 仮に宝くじで数百万(ドル)当たったら、それでもなお働きますか？

* この文の結論節は疑問文です。

④ I wouldn't fly that airline again, even if they paid me!

⇒ 私は飛ばないだろう・あの航空会社で・再び・たとえ彼らがお金を払っても・私に。

→ 二度とあの航空会社は使わないわ！たとえお金を貰ってもね。

* この文では条件節と結論節の順序が逆転しています。even の前のカンマは意味の切れ目をわかりやすくするためです。

③④のタイプの仮定法では、条件節を「if ... were to Vb」や「if ... should Vb」にすることがあります。例えば、例文③は次のように言うことができます。

⑤ If you were to win millions in the lottery, would you still work?

If you should win millions on the lottery, would you still work?

→ 仮に宝くじで数百万(ドル)当たったら、それでもなお働きますか？

* どちらもフォーマルな表現です。2 番目の「if ... should Vb」は主に((英))の用法ですが、やや古風な表現で、「if ... were to Vb」ほど用いられません。

* 「宝くじで」は、((米))では in を、((英))では on を用いるのが一般的です。

●● VOCABULARY

- ☐ **be one's age** **動** ...と同じ年齢である (同 **be as old as ...**)
- ☐ **otherwise** [ˈɒðərwaɪz] **副** そうでないように、それとは違うように、そうでなければ、さもなくば
- ☐ **count on ... (for ~)** **動** ...に(～を)頼る [当てにする]
[kaʊnt]
- ☐ **win** **動** 勝つ、〈試合・戦い〉に勝つ、〈賞・賞金〉を勝ち取る [獲得する] (*過去形は won [wɒn])
- ☐ **million** [ˈmɪljən] **名** 百万 (*名詞として「数百万」(millions) という場合は複数形の s を付けるが、「二百万」(two million dollars) のように後ろの名詞を修飾する場合は million に s を付けない)
- ☐ **lottery** [ˈlɒtəri | lɒt-] **名** 宝くじ、福引き
- ☐ **still** **副** それでも(やはり)、未だに、今もなお
- ☐ **fly** 航空会社 **動** <航空会社>を利用する
- ☐ **airline** [ˈeərlaɪn] **名** 航空路線、航空会社
- ☐ **even if** **接** たとえ～だとしても (* if にも同じ意味があるが even (たとえ) を付けた方が意味が明確になる)
- ☐ **pay** **動** ((第3文型)) <金>を支払う、<人>に支払う、((第4文型)) <人>に<金>を支払う

.....

(注) (英) のフォーマルな表現では結論節の would を should にすることがあります。

→ セールでなければ、買ってはいませんでした。

② His life might have been a lot easier if he had pursued the other path.

⇒ 彼の人生は・あったかもしれない・ずっとより楽で・仮に彼が進んでいたら・もう一方の進路を。

→ もう一方の道を進み続けていれば、彼の人生はもっと楽だったかもしれない。

* 条件節と結論節の順番が表の形とは逆になっている点に注意しましょう。

③ I could've warned you if you'd asked.

⇒ 私は警告できていただろうに・君に・仮に君が尋ねていたら。

→ 聞いてくれれば、注意してあげられたのに。

* could've の've は have の短縮形、you'd asked の'd は had の短縮形です。
日常会話では通常、助動詞を短縮形にするので、短縮形の発音に慣れておくことが大切です。

●● NOTE if 節の省略倒置

フォーマルな言い方では、仮定法過去完了の条件節を「**if を省略して疑問文の語順にする**」ということがあります。その結果、肯定形は「**had + 主語 + Vp.p.**」に、否定形は「**had + 主語 + not + Vp.p.**」(not の位置に注意)になります。前出の例文①と②をこの形に変えると、次の④と⑤になります。⑤のような、条件節が結論節の後ろに置かれる形は、文の全体構造を見失わないよう注意が必要です。

④ Had it not been on sale, I wouldn't have bought it.

→ セールでなければ、買ってはいませんでした。

* if が省略されて疑問文の語順になっている点に注意。

⑤ His life might have been a lot easier had he pursued the other path.

→ もう一方の道を進み続けていれば、彼の人生はもっと楽だったかもしれない。

* このように条件節が後ろに置かれる場合、条件節の文頭 (= had の前) にカンマを置くことはしないので、結論節と条件節の境目に注意が必要です。

●● VOCABULARY

- **on sale** [séil]
 形 ① 売りに出されて、② ((米)) セール中で、特価で
 (同 ① **for sale** ② ((英)) **on offer**)
- **a lot**
 副 ((比較級を修飾して)) ずっと (同 **much**)
- **pursue**
 [pə'su: | pəs'ju:]
 動 …の後を追って進む、…を追求める
 (名 **pursuit** [pə'su:t | pəs'ju:t] 追跡、追求)
- **the other** [ði ðəðə]
 形 もう一方の、残りの一つ[一人]の 代 もう一方、
 残りの一つ[一人] (形 代 **another** 別の一つ
 [一人] (の) 代 **the others** 他の[残りの]全て
 代 **others** ((漠然と) 他のもの[人達])
- **path** [pæθ | pá:θ]
 名 小道、細道、通り道、進路、コース、道筋
- **warn** [wɔ:rn]
 動 (<人>に) 警告する[注意する、戒める]
 (名 **warning** [wɔ:rnɪŋ] 警告)

④ Had it not been on sale, I wouldn't have bought it.

「もしもセールでなかったら、買っただろうか?」
 「はい、買いませんでした。」

⑤ His life might have been a lot easier had he pursued

the other path.

「もしも彼が別の道を選んだら、彼の人生はもっと楽だったかもしれない。」
 「はい、そうかもしれません。」

Lesson 163

👉 仮定法過去完了と仮定法過去の混合形

これまでに学習したのは、次の(1) 仮定法過去と(2) 仮定法過去完了です。

(1) 「条件節」と「結論節」が共に「**現在 / 未来**」を表す。… Lesson 161

(2) 「条件節」と「結論節」が共に「**過去**」を表す。… Lesson 162

これらの基本形を組み合わせ、次のような、仮定法過去と仮定法過去完了の混合形を作ることができます。

(3) 「条件節」が「**過去**」を表し、「結論節」は「**現在 / 未来**」を表す。

(4) 「条件節」が「**固定的な状況**」を表し、「結論節」は「**過去**」を表す。

(3) は「**あの時**～してれば、**今は**…であろうに」と言う場合です。条件節は「過去」の事実反することを述べ、結論節は「現在(希に未来)」の空想を述べているので、次の形になります。例文と共に確認してください。

条件節	結論節
If 主語 + had Vp.p. (仮にVしたとすれば; たとえVだったとしても)	would Vb (Vすることになるのだが)
	might Vb (Vするかもしれないが)
	could Vb (Vすることができるのだが; Vすることもあり得るだろうに)

① If I had studied economics, I might understand this.

「過去」の事実反する条件

「現在」の空想上の結論

⇒ 仮に私が勉強していたら・経済学を・私は理解しているかもしれない・これを。

→ 経済学を勉強していたら、私にもこれがわかるのかもしれないけど。

② If only you had followed the map, we wouldn't be lost.

「過去」の事実反する条件

「現在」の空想上の結論

⇒ 仮にただあなたが従ってれば・地図に・我々は道に迷っていないだろうに。

→ 地図通りに行ってさえいれば、こんなふうに迷ってなかったのに。

(4) は「(固定的な事実に対して) 仮に～だとすれば、あの時…だったろう」と言う場合で、条件節は「常に変わらない固定的な事実」に反することを述べ、結論節は「過去」の想像・空想（通常は過去の事実に反すること）を述べます。

条件節	結論節	
If 主語 + 過去形 (仮に～だとしたら； たとえ～だとした場合)	主語 +	would have Vp.p. (Vしたであろうに)
		might have Vp.p. (Vしたかもしれないだろうに)
		could have Vp.p. (Vできたであろうに；Vすることもあり えたであろうに)

③ If I were you, I would have informed the crew immediately.

「固定的事実」に反する条件 「過去」の空想上の結論

⇒ 仮に私があなたならば・私は知らせていただろう・乗務員に・直ちに。

→ もし私があなただったら、すぐに乗務員に知らせていたでしょうね。

④ If Mr. Sato spoke better English, he could have gotten the job.

「固定的事実」に反する条件

「過去」の空想上の結論

⇒ 仮に Sato さんが話すのであれば・より上手な英語を・彼はできたであろう・
得ることが・その仕事を。

→ Sato さんがもっと上手に英語が話せる人なら、その仕事に就けていたでしょう。

●● VOCABULARY

□ **economics**

[ˌɛkənəmiks, ɪˈkɔː -nəm-]

〔名〕 経済学、経済的条件 (* politics (政治学)、
statistics (統計学) のように -ics は学問を表す)

□ **if only**

〔接〕 ただ～しさえすれば

□ **be lost** [lɔːst | lɒst]

〔動〕 ((状態を表し)) 道に迷っている (〔動〕 **get lost**
((動作を表し)) 道に迷う)

□ **inform** [ɪnfɔːrm]

〔動〕 …に知らせる [告げる、通知する]

□ **crew** [kruː]

〔名〕 ((集合的に)) 乗組員、乗務員、作業チーム

□ **immediately** [ɪmɪˈdiətli]

〔副〕 即座に、直ちに (〔形〕 **immediate** 即座の)

Lesson 164

👉 実現していない願望を表す仮定法

願望を述べる表現でも仮定法が用いられます。これは主に「**wish** + that 節」の that 節で「現実には起こっていないこと」や「起こりそうにないこと」を述べる場合です。that 節の時制は、**現在の事実と反することを「過去形」で、過去の事実と反することを「過去完了形」で**表します。

wish (that)	S V 過去形 (S が V であればいいのと思う)
	S could Vb (S が V でできればいいのと思う)
	S had Vp.p. (S が V したらよかったのと思う)

(注) that はたいてい省略されます。

(注) 「V 過去形」が be 動詞の場合、仮定法過去の if 節と同様、主語に関係なく were にするのが正式な文法ですが、日常会話では主語が一人称と三人称の単数の場合に was を用いることがあります (Lesson 161 ②)。

次の例文は、「彼女は痩せていない」(she is not thin) という**現在の事実**に反して「痩せていれば」と願望を述べているので、that 節は「過去形」になっています。

① **Betty is on a diet. She wishes she were thinner.**

Betty is on a diet. She wishes she was thinner.

⇒ Betty は・ある・ダイエット中で。彼女は思っている・彼女がより痩せていたらと。

➔ Betty はダイエット中だ。彼女は自分がもっと痩せていればと思っている。

* were は正式な言い方。was は会話でよく使われる言い方です。

* thinner は thin の比較級。比較級の綴り方は **R24** ④ を参照。

次も、「私にはあなたの才能がない」(I don't have your talent)、「僕はそれを君にあげられない」(I can't give it to you) という**現在の事実**に反した願望です。

② **"I wish I had your talent." "I wish I could give it to you."**

⇒ 「私は思う・私が持っていればと・あなたの才能を」「僕は思う・僕ができればと・あげることが・それを・君に」

➔ 「私にあなたの才能があればなあ」「君に僕の才能をあげられたらなあ」

Ch.
15

次は、「私は多くの時間をエンジョイするのに費やさなかった」(I didn't spend much time enjoying myself) という過去の事実に対し願望です。

③ **Looking back, I wish I had spent more time enjoying myself.**

⇒ 振り返ってみて・私は思う・私が費やしていたらと・より多くの時間を・楽しむのに・私自身を。

→ 今振り返ると、もっとエンジョイする時間を多く取ればよかったと思います。

また、現状から見て実現しそうでないことについて、「S が V してくれたらいいのと思う」と言う場合は、**would** を用いて次の形で表します。

wish (that) S would Vb (S が V してくれればいいのと思う)

(注) この would は「Would you [someone] ~?」(あなたは[誰か]~してくれますか?) で使われる would (してくれる) と同じです。

④ **Joe wishes that Cindy would stop involving herself in his affairs.**

⇒ Joe は思っている・以下のことを・Cindy がやめてくれればと・巻き込むことを・彼女自身を・彼の事柄に。

→ Joe は Cindy が自分の事に首を突っ込むのはやめてほしいと思っている。

* 「I wish S would Vb」の「S」は、I wish gas prices would go down. (ガソリンの値段が下がってくれればなあ) のように「人以外」でも用いることができます。

仮定法の条件節では未来のことを動詞の過去形で表しますが (Lesson 161 ③④)、wish の場合は「would」を用いる点に注意してください。

●● VOCABULARY

☐ be [go] on a diet [daɪt]	☐ 動 ダイエットをしている [する]
☐ thin [θɪn]	☐ 形 薄い、細い、痩せている
☐ talent [tælənt]	☐ 名 (天賦の) 才能、人材、タレント
☐ looking back	☐ 副 振り返ってみると (* 分詞構文の慣用句)
☐ spend ... Ving	☐ 動 ...を V して費やす (* Lesson 99 の表)
☐ enjoy oneself	☐ 動 エンジョイする、楽しむ
☐ involve [ɪnvɒlv -vɒlv]	☐ 動 ...を含む、...を巻き込む、...を関与させる
☐ affairs [ə'feəz]	☐ 名 ((複数形で)) (私生活に関する) 事柄、私事

Lesson 165

👉 仮定法過去の丁寧表現

仮定法過去は、控え目に「へりくだって」尋ねたり頼んだりする場合にも用います。仮定法で時制を過去へとずらすのは、現実の時制から離すことで架空の感じを出すためでしたが (Lesson 161)、また、直接的な言い方から離すことで、「控え目」「遠慮」「へりくだり」の感じを出すためでもあります。例えば、Will it be all right if I take tomorrow off? と Do you mind if I turn the radio on? を次のように仮定法過去にすると、へりくだった、より丁寧な言い方になります。

① Would it be all right if I took tomorrow off?

⇒ それは・でしょうか?・問題ない・もし私が取ったら・明日を・オフ(=休み)として。

➔ 明日、お休みを頂いてもよろしいでしょうか?

* took は未来の行為を表しています。

② Would you mind if I turned the radio on?

⇒ あなたは気にするでしょうか?・もし私が回したら・ラジオを・オンに。

➔ ラジオをつけてもかまいませんか?

* turned は未来の行為を表しています。

また、この仮定法ではif節で **would** や **could** を用いることもあります。これは、「Vしていただけますか?」という意味の「**Could you Vb?**」(Lesson 153 ②)や「**Would you Vb?**」(Lesson 155 ②)、「Vしてよいですか?」の「**Could I Vb?**」(Lesson 153 ③)がif節に取り込まれたもので、次のような表現で用います。

(1) I would Vb if you could [would] Vb

(あなたがVしていただければ、私はVなのですが)

(2) I wonder [I'm wondering, I was wondering] if you could [would] Vb

(あなたはVしていただけるでしょうか)

(3) I wonder [I'm wondering, I was wondering] if I could Vb

(私はVしてよいでしょうか)

(注) (1)(2) では could の方が would よりも控え目な「へりくだった」言い方です。また、(3) では would を用いません (Would I...? とは言わないからです)。

(注) (2)(3) では I wonder → I'm wondering → I was wondering の順に控え目「へりくだり」の度合いが増します。

例文で確認しましょう。

③ I would be grateful if you would send me an estimate by fax.

⇒ 私は感謝するだろう・もしあなたが送ってくれたら・私に・見積書を・ファクスで。

→ 見積書をファクスでお送り頂けるとありがたいのですが。

④ I was wondering if you could give me a ride.

⇒ 私は思っていました・以下かどうかと・君が与えることができる・私に・乗車を。

→ 君に車で送ってもらえないかなって思ったんだけど。

⑤ "I wonder if I could copy your notes." "Sure. Go ahead."

⇒ 「私は思う・以下かどうかと・私が写すことができる・君のメモを」「ええ。遠慮しないで」

→ 「君のそのメモ、写させてもらうことができるかな」「ええ、どうぞ」

●● VOCABULARY

□ all right [ɔ:l raɪt]

□ take ... off

□ turn ... on

□ grateful [grɛɪtʃəl]

□ estimate

□ by fax [email, (cell / mobile) phone]

□ give ... a ride [raɪd]

□ copy [kɑ:pɪ | kɔ:pɪ]

□ notes [nəʊts]

□ Go ahead. [ə'hɛd]

形 問題ない、大丈夫な、無事な

動 ...を休み[休日]にする、...を脱ぐ

動 ...にスイッチを入れる、...を作動させる、...を点ける (反) turn ... off ...のスイッチを切る)

形 感謝している、有り難く思っている

名 [ɛstəmət] 推定、概算、見積もり、見積書

動 [ɛstəmeɪt] ...を推定する、...を見積もる

副 ファクス[Eメール、(携帯)電話]で(* a, the, myなどの修飾語を名詞に付けない)

動 ((米))<人>を車で送る (同) ((英)) give ... a lift

動 ...を書き写す、...をコピーする、...を模倣する

名 コピー、転写、複製品、(本などの)部

名 ((複数形で)) (授業・講義などの)メモ、ノート

慣 遠慮無くどうぞ。お先にどうぞ。

Lesson 166

仮定法と直説法の違い

ここまで仮定法について学習してきましたが、仮定法をより正確に理解するために、仮定法ではないものと比較してみましょう。次の3つの例文を見てください。

① If you mix red, blue, and yellow, you get brown.

⇒ もし人が混ぜたら・赤と青と黄色を・人は手にする・茶色を。

→ 赤と青と黄色を混ぜると、茶色になる。

② If he was embarrassed, he didn't show it.

⇒ たとえ彼が恥ずかしかったとしても・彼は見せなかった・それを。

→ たとえ内心は恥ずかしかったとしても、彼はそれを表に出さなかった。

* ここでの If は Even if (たとえ～だとしても) と同じ意味です。

③ You'll get fired if you don't get your work done.

⇒ 君は(将来)なる・首にされた(状態に)・もし君がしないのなら・君の仕事が・なされた状態に。

→ きちんと仕事をしなかったら、君はクビになるよ。

* これは Lesson 134 ③の例文です。

これらは全て仮定法ではありません。仮定法とは、事実に反することや、起こりそうにない非現実的なこと、机上の空論など表します。しかし、例文①は**事実**を述べており、②は**事実がわからないこと**(すなわち、事実に反するわけではないこと)を、③は**十分に起こり得る現実的なこと**を述べています。このような内容は、**述べられている通りの時制**で表し、これを「直説法」と呼びます(但し、③のように条件節が未来の場合は現在形を用います(Lesson 134 [NOTE]))。

では、次の例文は仮定法でしょうか、それとも直説法でしょうか？

④ You must be a genius if you were able to figure that out.

⇒ 君はちがいない・天才であるに・もし君ができたのなら・解くことが・それを。

→ それが解けたのなら、君はきっと天才だよ。

この文の条件節 (if you were able to figure that out) は事実と反していません。むしろ「過去の事実」と思われることを述べています。ですから直説法です。were という過去形を見て仮定法過去 (= 現在の事実と反する仮定) と早合点しないようにしてください。仮定法では、結論節に現在形の助動詞 (will, must, may, can't 等) を用いないので、この点からも仮定法ではないとわかります。

それから、that 節を目的語にとる願望・希望の動詞は、「**wish が仮定法、hope が直説法**」という使い分けをします。つまり、現実的でない願望は wish を用いて仮定法で表しますが、一般的な希望 (= 事実関係がわからないことや実現可能性が低いとは思わないこと) は hope を用いて直説法で表します。次の⑤～⑦は全て一般的な希望を述べていますが、⑤は希望の内容を表す that 節が「現在」のことなので「現在形」で、⑥は「過去」のことなので「過去形」で、⑦は「未来」のことなので「will」で、それぞれ表現されています。

⑤ "I hope that I'm not disturbing you, am I?" "No, not really."

⇒「私は願う・以下のことを・私が今邪魔をしていない・あなたを・どうですか？」
「いいえ・それほどではありません」

→「私、お邪魔しなければいいんですけど」「ええ、特には」

* 文末の付加疑問 am I は I'm not に呼応しています (Lesson 15 の 2 番目の表)。

⑥ "I hope I didn't keep you waiting long." "No, I just got here."

⇒「私は願う・私がい続けなかったことを・あなたを・待っている(状態に)・長い間」「いいえ・私は今しがた着いた・ここへ」

→「お待たせませんでしたか?」「いいえ、今来たばかりです」

* 2 番目の文は本来、現在完了形で I've just gotten here. とすべきところですが、just があるので、過去形に簡略化しています (Lesson 27 [NOTE])。

⑦ I hope you'll think it over and change your mind.

⇒ 僕は願う・君がじっくり考えるのを・それを・そして・変えるのを・君の気持ちを。

→ 僕は、君が(それを)よく考えて心変わりするのを願っている。

* これは Lesson 39 ⑥の例文です。I は think と change の両方にかかっています。

●● VOCABULARY

□ **mix** [miks]

□ **A, B, and C**

□ **embarrassed**

[imbə'reɪst]

□ **show**

□ **genius** [dʒiːniəs]

□ **figure ... out**

[ˈfɪɡjər | ˈfɪɡə]

□ **disturb** [dɪstɜːrb]

□ **Not really.**

□ **keep ... Ving**

□ **long**

□ **get**

動 ...を混ぜ(合わせ)る [名] 混ぜること

慣 AとBとC (*2つを並べる時は「A and B」)

形 恥ずかしい気分で、恥をかいて、ばつが悪い、決まり悪い (形 **embarrassing** [imbə'reɪsɪŋ] 人を恥ずかしい気分にさせる)

動 ...を示す、...を見せる、...を表に出す、...を案内する

名 天才、天賦の才能

動 ...を解明する、...の答えがわかる

動 <忙しい人>の邪魔をする、<仕事など>を妨げる [阻害する]、...の平穏を乱す

(名 **disturbance** [dɪstɜːrbəns] 阻害、乱れ、障害)

慣それほど [そんなに] でもありません。

動 ...をVしている状態にしておく (* Lesson 47 の表と例文①)

副 長い間 (同 **for a long time**)

動 ((後ろに副詞(句)を置いて)) ...に至る、...に辿り着く (* **get here** ここに着く **get there** そこ[そちら]に着く **get home** 帰宅する)

Chapter 16

単語・熟語数：82

文法のテーマ：形式語の it

it は既に述べられた名詞や名詞句などを指す代名詞として用いられますが、他に、「天候」「寒暖」「距離」「時」などを示す形式上の主語として用いたり、後に出てくる to 不定詞、動名詞、名詞節、副詞などを指す形式上の主語【目的語】としても用いられます。この Chapter では形式上の主語【目的語】としての it について学習します。

Lesson 167

☞ 天候・寒暖・距離・状況などを示す場合

主語が「(その場の) 状況」「天候」「寒暖」「明暗」「時間」「距離」などの場合は、それを具体的な名詞で示す必要がなかったり、また、示しづらかったりするので、**it** で代用します。次の直訳(⇨)の { } は **it** が示す具体的な名詞です。

① It is expected to be sunny throughout the week.

⇨ { 天候 } は予想されている・晴れていると・週の間ずっと。

→ この一週間はずっと晴天の予想です。

* sunny という語から主語が「天候」であることは明白です。

② Ben, it's getting dark. Come back inside.

⇨ Ben・{ 明暗 } はなりつつある・暗い(状態に)。来なさい・戻って・内部へと。

→ Ben、暗くなってきたから、おうちの中に入りなさい。

* dark (暗い) という語から主語が「周囲の状況」「明暗」であることは明白です。

③ "How far is it to the beach?" "It's no more than a 10-minute walk."

⇨ 「どのくらい遠いですか? ・ { 距離 } は・浜辺まで」「それは全く上回らない・10分の徒歩を」

→ 「ビーチまでの距離はどのくらいですか?」「歩いてせいぜい10分です」

* far (遠い) という語から主語が「距離」であることは明白です。

④ "No, no, this one's on me. It's my turn." "Oh, if you insist."

⇨ 「いえ・いえ・この食事はかかります・私に。{ 支払い } は私の順番です」

「あっ(そうですか)・もしあなたが強く言い張るのなら」

→ 「いえいえ、これは私の方で。今回は私の番ですから」「では、お言葉に甘えて」

* this one's の 's は is の短縮形です。

これらの例では、具体的な主語を述べなくても **it** とするだけで、それが何を示しているのかがわかります。また、②と④は、具体的な主語が示すのが難しいと言えます。次のレッスンでは、**it** が「時」を示す場合について学習します。

VOCABULARY

- ☐ **be expected to Vb** [ikspɛktɪd]
 動 Vすることが予想[期待]される、Vする見通し[見込み]である
- ☐ **sunny** [sʌni]
 形 明るく日の照った、日当たりの良い、晴れた
- ☐ **throughout** [θruːaʊt]
 前 …の間中ずっと、…を通じて、…の至る所に
- ☐ **dark** [dɑːrk]
 形 暗い、黒ずんだ (反 **bright** 明るい)
- ☐ **inside** [ɪnsaɪd]
 副 内側に、内部に 前 …の内側[内部]に
- ☐ **no more than** …
 慣 …以下で(しか)、最大でも…、せいぜい…
 (*「…より多く(more than…)では全然ない(no)」が直訳)
- ☐ **a 数字-minute walk**
 名 <数字>分間の徒歩 (*「数字」が複数でもminuteは常に単数形にする。「a 数字-minute drive」なら「<数字>分間のドライブ」になる)
- ☐ **… one**
 代 …なもの[人] (*例文④のoneは食事を指している。Lesson 50 ②のthis oneも参照)
- ☐ **… is on me.**
 慣 …は私のおごりだ。(慣 **… is on the company.** …は会社持ちだ。*「be on …」は「…の上にのしかかる」→「…の負担だ」)
- ☐ **turn** [tɜːn]
 名 ((所有格と共に用い)) 順番、番
- ☐ **if you insist** [ɪnsɪst]
 慣 どうしてもと[そこまで]言うのなら(仕方ありませんね) (動 **insist** 強く言い張る)

Lesson 168

👉 時を示す場合

次に、itが「時」を示す場合を見てみましょう。次の例文のitは「現在」という時を示しています。

① Now go to sleep. It's way past your bedtime.

⇒ 今・行きなさい・眠りに。{現在} はかなり過ぎている・君の就寝時刻を。

➔ もう寝なさい。とくに寝る時間を過ぎてるわよ。

* Lesson 23 ② と Lesson 84 ② の It も「時刻」の例です。

* go to sleep を go to bed としてもかまいません。

② Guess what day it is today? It's my birthday!

⇒ 推測して? ・何の日で・{現在} があるか・今日は。それは私の誕生日です。

➔ 今日は何の日かわかる? 私の誕生日なの!

* Can you guess ...? の Can you が省略されています。Guess の目的語は What day is it today? が間接疑問文になった what day it is today です。

また、「時」を示す it は、次のような慣用表現でもよく用いられます。

- | | | |
|-----|--------------------------------------|-------------------------|
| (A) | It is time (that) S V 過去形 | (今は S が V すべき時 [頃] だ) |
| (B) | It has been ... since S V 過去形 | (S が V して以来今で…が経つ) |
| (C) | It will be ... before S V 現在形 | ((将来) S が V するまでに…がかかる) |
| (D) | It was ... before S V 過去形 | (S が V するまでに…がかかった) |

(A) の表現で動詞が「過去形」なのは、「本来なら過去にそれをしていたはずだが(その時期を逃した)」という意味合いがあるからです。例文で確認しましょう。

③ It's time we got a new washing machine.

⇒ {現在} は時だ・(本来なら) 私達が買った(はずの)・新しい洗濯機を。

➔ もう洗濯機を買い換える時期だ。

* この文は It's time to get a new washing machine. に言い換えることができますが、「時期を逃した」という意味合いは失われ、単に「洗濯機を買い換える時期が来ている」という意味になります。

次は、(B)の表現です。表の since は接続詞ですが、since は前置詞でも使い、その場合は後ろに名詞を置きます。両方のケースを例文で確認しましょう。

④ It's been almost a year since Hank died.

It's been almost a year since Hank's death.

⇒ {時間} は現在までに・である・ほぼ1年・以下の時以来・Hank が亡くなった。

⇒ {時間} は現在までに・である・ほぼ1年・以下の時以来・Hank の死。

→ Hank が亡くなってほぼ1年が経ちます。

* 1 番目の文は接続詞、2 番目は前置詞です。's been の 's は has の短縮形です。

また、この表現では、次のように has been を is にすることがあります。

⑤ How long is it since you last replaced it?

⇒ どれだけの長さ・ですか?・{時間} は・以下の時以来・あなたが最後に取り替えた・それを。

→ 前にそれを取り替えてからどのくらい経ちますか?

* is it を has it been としても同じです。

最後は、(C) と (D) の表現です。before も since と同様、接続詞と前置詞の両方で使い、後ろには文と名詞の両方を置くことができます。ここでは接続詞の例文を見てみましょう。「before + 文」は「時の副詞節」なので、未来のことを現在形で表します (⑥の yield がこれに当たります)。

⑥ It will be years before these investments yield profits.

⇒ {時間} は (将来) 数年だ・以下の前は・これらの投資が・生む・利益を。

→ これらの投資が利益を生むまでには数年かかります。

* 投資が複数 (investments) なので生まれる利益も複数 (profits) になります。

⑦ It was a long time before he got used to his new surroundings.

⇒ {時間} は長い時間だった・以下の前は・彼が慣れた・彼の新しい環境に。

→ 彼が新しい環境に慣れるまでにはかなりの時間がかかった。

* 「～するのにあまり時間がかからなかった」なら、「It wasn't long before～」とします (否定形の場合は a long time より long の方が一般的です)。

●● VOCABULARY

□ **go to sleep**

□ **way**

□ **past** [pæst | pá:st]

□ **bedtime** [bédtaim]

□ **guess** [gés]

□ **What day is it?**

□ **washing machine**

[wáfij mæfi:n | wáfij-]

□ **almost**

□ **death** [déθ]

□ **last** [læst | lá:st]

□ **replace** [ripléis]

□ **investment** [invéstmənt]

□ **yield** [ji:ld]

□ **profit** [práfit | próf-]

□ **get used to ...** [jú:st]

□ **surroundings**

[səraúndigz]

動 寝る、眠りにつく、寝入る

副 とても、かなり (*位置や方向の副詞(句)を修飾する。例文①では past your bedtime を修飾)

前 ...を過ぎて

名 就寝時刻 形 就寝時の

動 ...を推測[推量]する 名 推測、推量

慣 (1) 今日は何曜日ですか? (2) 今日は何の日ですか? (通常は (1) の意味。例文②は (2) の意味)

名 洗濯機 (* washing は「動名詞の形容詞的用法」(Lesson 90) で machine を修飾)

副 ほぼ、ほとんど、あともう少しで (同 **nearly**)

名 死、死亡、死亡者 (形 **dead** 死んでいる)

副 最後に、一番最近、この前 形 最後の

動 ...を取り替える、...を交換する、...に取って代わる

名 投資 (動 **invest** (...を) 投資する)

動 ...を生み出す、...を産出する 名 産出量

名 利益、利潤、得

動 ...に慣れる (動 **be used to ...** ...に慣れている)

名 周囲の環境[状況] (動 **surround** ...を取り囲む)

形 **surrounding** 周囲の)

Lesson 169

👉 後ろの名詞句を指す場合

it は後ろに置かれた「名詞句」や「名詞節」を指し示すことができます。it が指す名詞句は **to不定詞** と **動名詞** で、名詞節は **that 節**、**if/whether 節**、**間接疑問文** です。この it は「主語」か「目的語」に置かれます。it を用いて主語や目的語を短くすることで、文構造 (= 文型) の把握が容易になります。このレッスンでは、it が後ろの名詞句、すなわち、to不定詞と動名詞を指す場合について学習します。

次の表は、it が「形式上の主語」となり、後ろの「to不定詞」及び「動名詞」を指す場合です。一般に、to不定詞よりも動名詞の方が口語的です。

<u>It</u> + V ...	to Vb (VすることはV…だ)
<u>S</u>	Ving (VすることはV…だ)

it が「動名詞 (Ving)」を指す例文を中心に見てみましょう。

① Would it be possible to put it off till the end of March?

- ⇨ それは可能でしょうか・延期することは・それを・終わりまで・3月の。
 → 3月末までそれを延期していただくことは可能でしょうか?
 * Would it be は Is it をへりくだった言い方にしたものです (Lesson 155)。

② It's fun being here. We all like it here.

- ⇨ それは楽しい・いることは・ここに。私達は皆気に入っている・状況を・ここでの。
 → ここにいるのは楽しいです。我々はみんなここが気に入っています。
 * これは It's fun to be here. とするよりもくだけた言い方です。
 * 2番目の文の it は「状況」を表す形式語です。here は副詞で like の目的語にはできないため、代名詞の it を目的語にして、it が here を指すようにしています。

③ "It was nice meeting you." "Nice meeting you too. Bye."

⇒ 「それは素晴らしかった・会ったことは・あなたに」「素晴らしかった・会ったことは・あなたに・同じく。さようなら」

→ 「お会いできてよかったです」「こちらの方こそ。それでは」

* 1 番目の文は慣用的で、It was nice to meet you. とするよりも一般的です。

* 2 番目の文は It was nice meeting you too. の It was が省略されています。

④ It's no use talking to Hank—he is so stubborn.

⇒ それは無の効用[役立ち]だ・話すことは・Hank と。彼はとても頑固だ。

→ Hank と話をしたって無駄よ。とても頑固だから。

* 一番目の文は There's no use talking to Hank としても同じです (Lesson 155 ⑤)。

次は、it が「形式上の目的語」となり、後ろの「to 不定詞」及び「動名詞」を指す場合です。「to 不定詞」よりも「動名詞」の方が口語的ですが、「動名詞」を使うのは比較的まれです。

S + V + <u>it</u> + C O	to Vb (S は V することが C だと V する) Ving (S は V することが C だと V する)
----------------------------	---

(注) 補語 (C) には形容詞か名詞(句)を置きます。

⑤ I often find it hard to get out of bed in the morning.

I often find it hard getting out of bed in the morning.

⇒ 私はしばしばわかる・それが・難しいと・至ることが・ベッドの外に・朝に。

→ 朝、ベッドから出るのがつらいとすることがよくある。

⑥ This book makes it easy for beginners to master daily English.

⇒ この本はさせる・それを・簡単に・初心者が・習得することを・日常の英語を。

→ この本は初心者が日常英語を習得するのを容易にしてくれます。

* for beginners は to master daily English の意味上の主語です (Lesson 79)。

●● NOTE 「It is ... for ... to Vb」と「It is ... of ... to Vb」の違い

1 番目の表の「It is 形容詞 to Vb」の「to Vb」に「意味上の主語」を置く場合は、for を付けて「It is 形容詞 for 意味上の主語 to Vb」とします。

⑦ It's natural for teenagers to seek independence.

イコールでない

→ 十代の若者が自立を求めるのは自然なことです。

* これは Lesson 79 ① の例文と (independence を除いて) 同じです。

このように **for** を用いるのは、「形容詞」と「意味上の主語」の間にイコールの関係が成立しない場合です。⑦では「teenagers (十代の若者) ≠ natural (自然だ)」ですから for を用います。しかし、まれに「形容詞」と「意味上の主語」の間にイコールの関係が成立する場合があります。次がその例です。

⑧ "It's very nice of you to come see me off." "My pleasure."

イコール

⇒ 「それはとてもやさしい・君は・来ることは・見送りに・私を」「私の喜びです」

→ 「見送りに来てくれて本当にありがとう」「どうぞ致しまして」

* come see は come to see の to が省略された形です (Lesson 73 ⑤)。

この例文では「you (君) = nice (やさしい)」の関係が成立しています。このように、「形容詞」と「意味上の主語」の間にイコールの関係が成立する場合は **for** ではなく **of** を用います。「... of ~」の of は、「~」と「...」がイコールであることを示す語で、That's very nice of you. (それはとてもやさしい・すなわち君は。→ そうしてくれるとは君はとてもやさしい。) のようにも用います。

●● VOCABULARY

- ☐ **put ... off**
- ☐ **till** [tɪl]
- ☐ **fun** [fʌn]
- ☐ **It was nice meeting you.**
- ☐ **It is no use Ving.** [jʊ:s]
- ☐ **stubborn** [stʌbərən]
- ☐ **get out of ...**
- ☐ **beginner** [bɪɡɪnər]
- ☐ **master** [mæstər | mɑ:stə]
- ☐ **daily** [deɪli]
- ☐ **independence** [ɪndɪpəndəns]
- ☐ **see ... off**
- ☐ **My pleasure.** [plɛʒər]
- ☐ **動** <予定日>を後ろにずらす、…を延期する
- ☐ **前** …まで(ずっと) **接** …まで(ずっと)
(**同** **until** * till は until より口語的)
- ☐ **名** 楽しみ、面白さ、楽しい[面白い]こと
- ☐ **慣** あなたとお会いできてよかったです。(※別れ際のことで It was は省略が可能。初対面の最初の挨拶は (It's) nice to meet you.)
- ☐ **慣** ((口語)) Vしても無駄だ[うまくいかない]。
(※この表現では of no use (Lesson 51 ②)を参照)の of が省略されている)
- ☐ **形** 頑固な、強情な、断固とした
- ☐ **動** …の外に出る (**反** **get into** … …の中に入る)
- ☐ **名** 初心者、初学者
- ☐ **動** …を(完全に)習得[マスター]する
- ☐ **形** 毎日の、日常の **副** 毎日
- ☐ **名** 独立、自立 (**形** **independent** 独立した)
- ☐ **動** …を見送る (**反** **meet** …を出迎える)
- ☐ **慣** どう致しまして。喜んで。望むところです。

Lesson 170

👉 後ろの名詞節を指す場合

このレッスンでは、it が後ろの「**名詞節**」を指す場合について学習します。it は代名詞なので、名詞の一種である名詞節を指すことができるわけです。it が指す名詞節の中では「**that 節**」が最もよく用いられます。

① Is it true that Perez turned pro in high school?

S

- ⇒ それは本当ですか？・以下のことは・Perez がなった・プロに・高校時代に。
→ Perez は高校時代にプロになったって本当ですか？

② It's fortunate you have a job that pays well.

- ⇒ それは幸運だ・君が持っているのは・仕事を・すなわちそれは金を払う・良く。
→ 君は給料の良い仕事に就けて運がいいよ。
* you の前に that が省略されています。口語ではよく that を省略します。
* that pays well の that は主格の関係代名詞です。

it が that 節を指す場合は、① ②のように、「It is 形容詞 that 節」にするのが一般的ですが、次の「It seems that 節」のような慣用表現もあります。

③ It seems that Mr. Sato smiles to conceal his feelings.

- ⇒ それが思われる・以下のことが・Sato さんは微笑む・隠すために・彼の感情を。
→ Sato さんは自分の感情を隠すために微笑むようだ。

また、次のように、it が**目的語**に置かれることもあります。

④ Don't take it for granted that your income will keep rising.

V

O

- ⇒ 受けとめてはいけない・それを・当然のことと・以下のことを・あなたの所得が今後続ける・上がることを。
→ 所得が右肩上がりに増えるのを当たり前と考えてはいけませんよ。

さらに、itは名詞節の「**間接疑問文**」や「**whether [if] 節**」を指すことができます。
次の2つは間接疑問文の例文です (whether [if] 節を指す例文は Lesson 111 ①)。

⑤ **It's amazing how you can come up with such brilliant ideas!**

⇒ それは驚きだ・どのようにして・君が思いつけるのか・そんな素晴らしいアイデアを。
→ どうしてそんな素晴らしいアイデアが(次々)思いつくのか、まったく驚きだよ。

⑥ **It doesn't matter who scores so long as we win.**

⇒ それは重要ではない・誰が得点するかは・以下である限り・我々が勝つ。
→ 誰が得点したかは問題ではない。勝ちさえすればいい。

●● VOCABULARY

☐ true [tru:]	☐ 形 本当である、事実である
☐ turn	☐ 動 ((第2文型)) …になる [変わる]、…に転向する
☐ pro [pru:]	☐ 形 プロの ☐ 名 プロ (同 professional)
☐ in high school	☐ 副 高校時代に (同 in college 大学時代に)
☐ fortunate [fɔ:tʃənət]	☐ 形 幸運な、運のよい (同 lucky)
☐ pay	☐ 動 金を払う、得になる、…を支払う ☐ 名 給料
☐ It seems (that) ~ , [si:mz]	☐ 慣 ~だと思われる。~のようだ。 (同 It appears (that) ~ ; It seems like ~ .)
☐ conceal [kənseɪl]	☐ 動 <物・情報・感情など>を(意図的に)隠す
☐ take it for granted that ~ [græntɪd grɑ:n-]	☐ 動 ~を当然[常識、当たり前]だと思う (*「take ... for granted」は Lesson 138 ⑤を参照)
☐ income [ɪnkam]	☐ 名 所得、収入
☐ keep Ving	☐ 動 Vし続ける
☐ rise [raɪz]	☐ 動 上がる、昇る、立ち上がる ☐ 名 上昇、増加
☐ amazing [əmeɪzɪŋ]	☐ 形 驚きである (同 amazed [əmeɪzd] 驚いている)
☐ come up with ...	☐ 動 ...を思いつく、...を考え出す (同 think of ...)
☐ brilliant [brɪljənt]	☐ 形 素晴らしい、卓越した、とても優秀な
☐ matter [mætər]	☐ 動 重要[問題]である、違いがある
☐ score [skɔ:r]	☐ 動 得点する、<得点>を取る ☐ 名 得点
☐ so long as	☐ 接 ~である限り、~しさえすれば (同 as long as)

Lesson 171

👉 後ろの副詞節を指す場合

it は代名詞なので名詞 (= 名詞句と名詞節) を指すのが本来の働きですが、次のように「副詞節」(主に whether 節、if 節、when 節) を指すこともできます。

① It makes no difference whether you are male or female.

⇒ それは生む・無の違いを・以下であれ・その人が男性で・もしくは・女性で。

➔ 性別は全く関係ありません。

* この文の you は不特定の人を指す用法です。

* whether 節は名詞節(「その人が男性か女性かということ」)にも解釈できます。

② Wouldn't it be nice if we could celebrate Christmas together?

⇒ それは素晴らしいだろうか?・もし私達が祝うことができれば・クリスマス
を・一緒に。

➔ クリスマスを一緒にお祝いできたら素敵じゃない?

* この文と次の③は、Lesson 165 で学習した控え目な [へりくだった] 言い方にするための仮定法過去です。

③ I'd appreciate it if you got back to me on this.

⇒ 私は感謝するでしょう・それを・もしあなたが返事をしたら・私に・これに関して。

➔ この件に関してお返事を頂ければ幸いです。

* この if 節は副詞節なので他動詞 appreciate の目的語にはできません。そこで、目的語に形式語の it にして、it が if 節を指すようにしています。

* これは仮定法過去の文です。I'd の 'd は would の短縮形です。if you got を if you could get とすることもできます (この could は Lesson 165 の表を参照)。

④ I hate it when my parents say, "Because I said so."

⇒ 私は大嫌いだ・それが・以下の時が・私の両親が言う・「何故なら・私が言ったからだ・そう」と。

→ 親に「ダメと言ったらダメなの」って言われるのが本当に嫌だ。

* when 以下は副詞節なので他動詞 hate の目的語にはできません。そこで、目的語を形式語の it にして、it が when 以下を指すようにしています。

● VOCABULARY

☐ make a difference

[dɪfərəns]

☐ whether ~ or ...

☐ male [méil]

☐ female [fi:meil]

☐ celebrate [sələbreɪt]

☐ appreciate [əpri:ʃi:ɪt]

☐ get back to ...

☐ on

☐ hate [héit]

☐ Because I said so.

動 違い[変化]を生む、違いが出る、効果[影響]を及ぼす

副 ~であれ...であれ **名** ~かそれとも...か

形 男の、雄の **名** 男、雄

形 女の、雌の **名** 女、雌

動 ...を祝う、...を祝賀する、お祝いをする

動 ...に感謝する、...の良さがわかる

動 ...に戻る、...に後で電話[メール、話]をする、...に折り返し連絡する

前 ...に関して (**同** about, regarding)

動 ...が大嫌いである、...にむかつく、...を憎む

慣 とにかく言うことを聞きなさい。私の言うことには逆らうな。ダメと言ったらダメなんだ。
(※子供が納得のいかないことに対して Why? と尋ねた時に親が用いる強権的なセリフ)

Lesson 172

👉 「It is ... that 節」の強調構文 (1)

文の「主語 (S)」「目的語 (O)」「副詞(句)」のいずれかを、「It is ... that ~」の「...」に置き、それ以外の部分を「~」に置くと、「~なのは...だ」という「...」を強調した文が作れます (これを「強調構文」と呼びます)。次の例文を見てください。

① Perez defeated Burns in the final.

S V O 副詞句

⇒ Perez は打ち負かした・Burns を・決勝戦で。

→ Perez は決勝戦で Burns を破った。

この例文には強調できる要素が3つ (主語、目的語、副詞句) あります。各要素を強調した文を作ってみましょう。文の時制は過去形なので、「It was ... that ~」とします。

「主語 (S)」の Perez を強調すると、次のようになります。

② It was Perez that defeated Burns in the final.

S V O 副詞句

⇒ それは Perez であった・すなわち・打ち負かしたのは・Burns を・決勝戦で。

→ Burns を決勝戦で破ったのは Perez だった。

「目的語 (O)」の Burns を強調すると、次のようになります。

③ It was Burns that Perez defeated in the final.

O S V 副詞句

⇒ それは Burns であった・すなわち・Perez が打ち負かしたのは・決勝戦で。

→ Perez が決勝戦で破ったのは Burns だった。

「副詞句」の in the final を強調すると、次のようになります。

④ It was in the final that Perez defeated Burns.

副詞句

S

V

O

⇒ それは決勝戦においてだった・すなわち・Perez が打ち負かしたのは・Burns を。
→ Perez が Burns を破ったのは決勝戦においてだった。

別の例を見てみましょう。Not quantity but quality counts. (量ではなく質が重要である) の下線部 (主語) を強調すると、次のようになります。

⑤ It's not quantity but quality that counts.

S

V

⇒ それは量ではない・そうではなく・質だ・すなわち・重要であるのは。
→ 大事なものは量ではなく質です。

●● VOCABULARY

☐ defeat [difit]	☐ 動 …を打ち負かす ☐ 名 敗北、負け
☐ final [fáinl]	☐ 名 決勝戦、最終 [期末] 試験 ☐ 形 最後 [最終] の
☐ not ... but ~	☐ 慣 …ではなく～、…ではないが～
☐ quantity [kwántəti kwón-]	☐ 名 量、数量、分量
☐ quality [kwáləti kwól-]	☐ 名 質、品質 ☐ 形 ((名詞の前で用い)) 質の高い
☐ count [káunt]	☐ 動 重要 [大事] である、重視される

Lesson 173

👉 「It is ... that 節」の強調構文 (2)

次の例文は、前のレッスンの②で示した強調構文です。

① It was Perez that defeated Burns in the final.

「人」の S V

⇒ それは Perez であった・すなわち・打ち負かしたのは・Burns を・決勝戦で。

➔ Burns を決勝戦で破ったのは Perez だった。

このように、「It is ... that ~」の「...」に「人」の主語が置かれる文は、that の代わりに **who** を用いて、次のように言うこともできます。

② It was Perez who defeated Burns in the final.

⇒ それは Perez であった・誰が打ち負かしたかは・Burns を・決勝戦で。

➔ Burns を決勝戦で破ったのは Perez だった。

この例文の「who ~」は間接疑問文と考えられ、It は「who ~」を指しています。「It is ... **who** ~」で「誰が~か」と言えば、それは…だ [だった] という意味です。もう一つ例を見てみましょう。

③ My father got me interested in architecture.

「人」の S V

⇒ 私の父はさせた・私が・興味をもつように・建築に。

➔ 私は父の影響で建築に興味をもつようになりました。

* got は第 5 文型の用法で made に置き換えが可能です。

この例文の My father は「人」の主語なので、My father を強調した強調構文は、次のように that と who の 2 通りで表すことができます。

④ It was my father that got me interested in architecture.

It was my father who got me interested in architecture.

「人」の S V

⇒ それは私の父だった・すなわち・させたのは・私が・興味をもつように・建築に。

⇒ それは私の父だった・誰がさせたかは・私が・興味をもつように・建築に。

➔ 私が建築に興味をもつきっかけを与えたのは私の父です。

また、「物」の主語が「It is ... that ~」の「...」に置かれる文では、that の代わりに **which** を用いることができます（この「which ~」は「どれが〜か」という間接疑問文とも「すなわちそれは〜だが」という関係代名詞節とも解釈が可能）。次の⑤の主語を強調した文は、⑥のように2通りで表すことができます。

⑤ **This feature makes the device easier to use.**

「物」の S V

⇒ この特徴はさせている・その装置を・より簡単に・使うのが。

→ この特徴により、その装置はより使い易くなっています。

* to use は easier (easy の比較級) の意味を限定しています (Lesson 76)。

⑥ **It is this feature that makes the device easier to use.**

It is this feature which makes the device easier to use.

「物」の S V

⇒ それはこの特徴だ・すなわち・させているのは・その装置を・より簡単に・使うのが。

⇒ それはこの特徴だ・すなわちそれはさせている・その装置を・より簡単に・使うのが。

→ その装置をより使い易くしているのは、この特徴です。

「who ~」「which ~」以外の間接疑問文 [関係代名詞節] を用いた強調構文も可能ですが、あまり用いられません。

最後に、**疑問詞** (主に what, who, why) を強調した文の作り方を説明します。「It is ... that ~」の「...」に what, who, why を置くと、「It is what that ~」「It is who that ~」「It is why that ~」になります。そして、これを正しい語順にすると以下の形になります。次の頁の例文と共に確認してください。

(A)	What is it that V?	(V するのは何なのですか?)
	What is it that S V?	(S が V するのは何なのですか?)
(B)	Who is it that V?	(V するのは誰なのですか?)
	Who is it that S V?	(S が V するのは誰なのですか?)
(C)	Why is it that S V ...?	(S が V ... するのは何故なのですか?)

(注) (A) の 1 番目の文の What と (B) の 1 番目の文の Who は V の主語 (S) に当たります。

(注) (A) の 2 番目の文の What と (B) の 2 番目の文の Who は V の目的語 (O) に当たります。

⑦ **Joe, what is it about manga that attracts you so much?**

⇒ Joe・何ですか?・それは・マンガについての・すなわち・引きつけている・君を・そんなに。

→ Joe、君をそんなに引きつけるマンガの魅力って何だ?

* (A) の1番目の形です。about manga は What を修飾。

⑧ **Who was it that said, "The unexpected always happens."?**

⇒ 誰でしたか?・それは・すなわち・言ったのは・「予期せぬ事は必ず起こる」と。

→ 「予期せぬ事は必ず起こる」って誰のことばでしたっけ?

* (B) の1番目の形です。The unexpected は三人称単数の名詞です (VOCABULARY 欄の「the 形容詞」の項目を参照)。

⑨ **Why is it that the girls I like never like me back?**

⇒ 何故なんだ?・それは・すなわち・女の子達・(すなわちその人達を) 僕が好きな・は決して好きではない・僕を・逆に。

→ 僕が好きな女の子は決まって僕を好きでないのはいったい何故なんだ。

* that 節の主語は girls で動詞は like (me)。I like は関係代名詞節で girls を修飾。

●● VOCABULARY

□ **get**

動 ((第5文型)) …を～にさせる (*「～」に当たる補語は形容詞、過去分詞など)

□ **architecture** [ˌɑːrkɪtɛktʃər]

名 建築、建築術 (名 architect [ˌɑːrkɪtɛkt] 建築家)

□ **feature** [fi:tʃər]

名 特徴、特性、特集記事、呼び物、目玉

動 …を呼び物[目玉]にする、…を特集する

□ **device** [dɪvaɪs]

名 装置、仕掛け

□ **attract** [əˈtrækt]

動 …を引き付ける、…を魅了する、…を呼び込む

□ **the 形容詞**

名 <形容詞> 人(達)、<形容詞> など
(名 the rich お金持ち the impossible 不可能なこと: 「人」を表す場合は複数扱い、「こと」を表す場合は単数扱い、が一般的)

□ **unexpected** [ˌʌnɪkspektɪd]

形 予期せぬ、予想外の (動 expect …を予想する)

□ **back**

副 逆(向き)に、反対に、お返しに、返答して